

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年11月13日
【中間会計期間】	第20期中（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）
【会社名】	株式会社日本動物高度医療センター
【英訳名】	Japan Animal Referral Medical Center Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平尾 秀博
【本店の所在の場所】	神奈川県川崎市高津区久地二丁目5番8号
【電話番号】	044-850-1320（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 石川 隆行
【最寄りの連絡場所】	神奈川県川崎市高津区久地二丁目5番8号
【電話番号】	044-850-1320（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 石川 隆行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 中間連結会計期間	第20期 中間連結会計期間	第19期
会計期間	自2023年4月1日 至2023年9月30日	自2024年4月1日 至2024年9月30日	自2023年4月1日 至2024年3月31日
売上高 (千円)	1,982,185	2,569,168	4,270,195
経常利益 (千円)	152,198	351,992	489,781
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 (千円)	97,749	242,840	337,217
中間包括利益又は包括利益 (千円)	97,749	242,840	337,217
純資産額 (千円)	3,848,362	3,870,688	3,811,423
総資産額 (千円)	8,664,921	8,561,983	8,770,036
1株当たり中間(当期)純利益金額 (円)	35.61	93.54	123.01
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額 (円)	35.07	93.31	121.26
自己資本比率 (%)	44.4	45.2	43.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	364,622	565,255	899,782
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	789,167	711,840	985,860
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	198,468	262,594	392,322
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 (千円)	1,589,963	928,460	1,337,639

(注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第19期第4四半期連結会計期間より「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として所有する当社株式を、1株当たり中間(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

2【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、一部に弱い動きが見られましたが、緩やかに回復しました。鉱工業生産は、一進一退の動きとなりました。個人消費は、物価高の影響から一部に弱い動きが見られましたが、持ち直しました。設備投資は、高水準の企業収益を背景に底堅く推移しました。

当社グループが属する動物医療業界におきましては、ペットに癒しを求める動きは依然強く、高齢化したペットが抱える疾病の多様化とそれに対応するための動物医療の高度化への期待はさらに高まっております。

このような環境の中、当社グループは、“動物医療の「できない」をなくし、動物とともに生きる人の希望になる。”を使命とし、飼い主のかかりつけ病院（一次診療施設）から紹介を受け、特定の専門分野を持つ獣医師が高度な医療機器を使用して行う診療サービス（二次診療）を中心に、MRI・CTによる画像検査専門の動物検診センターの運営（画像診断サービス）及び動物の健康管理のための酸素濃縮器のレンタル・販売を展開してまいりました。また当社グループ内の診療実績を発表し、広く共有するための学会報告を積極的に行うことにより、動物医療業界における信頼の獲得と認知度の向上を図り、紹介いただく症例数等の増加に努めてまいりました。

当中間連結会計期間において、既存病院では順調に獣医師の採用が進み診療受入能力が向上したことにより、診療数は大幅に増加いたしました。

2023年6月に診療を開始した大阪病院は、診療体制が予定通り整ったことに加え、セミナー開催等により関西を中心に連携病院との関係を強化したことや、5月に稼働を開始した放射線治療施設（川崎本院に続き2施設目）が、動物への負担が少ない治療を選択したい飼い主のニーズを背景に好評であること等から、開院から12ヶ月後の2024年5月に単月黒字化を達成し、以降も順調に推移いたしました。

その結果、二次診療サービスにおきましては、初診数（新規に受け入れた症例数）は4,981件（前年同期比29.2%増）、総診療数（初診数と再診数の合計）は17,089件（前年同期比26.9%増）、手術数は1,502件（前年同期比29.8%増）となりました。また、連携病院数は4,551病院となり、前年同期から191件増加いたしました。

画像診断サービスにおきましては、引き続き一次診療施設への営業活動を強化いたしましたが、一部施設においてMRIを最新機種へ入れ替える工事を行い7～8月に休業したため、検査件数は前年同期比横ばいとなりました。

健康管理機器レンタル・販売におきましては、代理店との関係強化施策を継続して推進したことにより、レンタル数・販売数は前年同期比増加となりました。

これらの結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高は2,569,168千円（前年同期比29.6%増）、営業利益は350,917千円（前年同期比119.6%増）、経常利益は351,992千円（前年同期比131.3%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は242,840千円（前年同期比148.4%増）と増収増益となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は1,415,759千円となり、前連結会計年度末に比べ361,604千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が409,179千円減少したことによるものであります。固定資産は7,146,224千円となり、前連結会計年度末に比べ153,551千円増加いたしました。これは主に大阪病院の放射線治療棟開設による建物及び構築物の増加、建設仮勘定の減少によるものであります。

この結果、総資産は8,561,983千円となり、前連結会計年度末に比べ208,053千円減少いたしました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は1,337,810千円となり、前連結会計年度末に比べ200,800千円減少いたしました。これは主に未払法人税等が51,197千円、1年内返済予定の長期借入金が37,488千円、賞与引当金が15,144千円増加した一方で、未払金が286,838千円減少したことによるものであります。また、固定負債は3,353,484千円となり、前連結会計年度末に比べ66,516千円減少いたしました。これは主に長期借入金78,339千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、4,691,295千円となり、前連結会計年度末に比べ267,317千円減少いたしました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は3,870,688千円となり、前連結会計年度末に比べ59,264千円増加いたしました。これは主に自己株式の取得による164,895千円の減少、及び自己株式の処分による25,188千円の増加、配当の実施による53,865千円の減少、並びに、親会社株主に帰属する中間純利益による242,840千円の増加によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)は、営業活動による資金の増加565,255千円、投資活動による資金の減少711,840千円、財務活動による資金の減少262,594千円の結果、前連結会計年度末に比べ409,179千円減少し、928,460千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は、565,255千円(前年同期比55.0%増)となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益351,992千円、減価償却費264,997千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、711,840千円(前年同期比9.8%減)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出688,691千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、262,594千円(前年同期は198,468千円の収入)となりました。これは主に、長期借入れによる収入300,000千円、長期借入金の返済による支出340,851千円、自己株式の取得による支出172,391千円によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当中間連結会計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

当中間連結会計期間における当社グループ全体の研究開発活動は、販売商品の研究、開発を目的としております。なお、研究開発費の総額は152千円であります。

3【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末現在発行数(株) (2024年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2024年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,878,200	2,878,200	東京証券取引所 グロース市場	単元株式数100株
計	2,878,200	2,878,200	-	-

(注) 発行済株式のうち95,000株は現物出資(金銭報酬債権195,202千円)によるものであります。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2024年4月1日 ~2024年9月30日 (注)	19,500	普通株式 2,878,200	4,875	801,600	4,875	701,600

(注) 新株予約権の行使により、発行済株式総数が19,500株、資本金及び資本準備金がそれぞれ4,875千円増加しております。

(5) 【大株主の状況】

2024年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタン レーMUFG証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町1丁目9-7 大手町フィナンシャルシティサウス タワー)	416,900	15.30
KCPエクイティアシスト1号投資事業 有限責任組合	東京都港区南青山3丁目10-43	320,000	11.74
株式会社日本カストディ銀行(信託 E口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	140,000	5.14
風越建設株式会社	神奈川県横浜市中区相生町3丁目56-1	120,000	4.40
平尾 秀博	東京都世田谷区	90,100	3.31
サンリツサービス株式会社	千葉県千葉市花見川区幕張本郷1丁目2 -24	85,000	3.12
日本生命保険相互会社 (常任代理人 日本マスタートラス ト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目6-6 (東京都港区赤坂1丁目8-1 赤坂イ ンターシティAIR)	62,000	2.28
岡三証券株式会社	東京都中央区日本橋室町2丁目2-1	50,300	1.85
松永 悟	神奈川県川崎市宮前区	41,500	1.52
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6-1	39,382	1.45
計	-	1,365,182	50.10

- (注) 1. 上記の発行済株式より除く自己株式には、「株式給付信託(J-ESOP)」導入に伴い、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する140,000株は含まれておりません。
2. 2024年10月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、ビルグリム・パートナーズ・アジア・ピーティーイー・エルティーディーが2024年9月30日現在で419,900株(株券等保有割合14.59%)の株式を保有している旨が記載されておりますが、当社として当中間会計期間末現在における実質保有株式数の確認ができませんので、上記大株主には含めておりません。

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2024年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 153,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,720,700	27,207	-
単元未満株式	普通株式 4,100	-	-
発行済株式総数	2,878,200	-	-
総株主の議決権	-	27,207	-

(注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式16株が含まれています。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には「株式給付信託(J-ESOP)」が所有する当社株式140,000株(議決権の数1,400個)が含まれています。

【自己株式等】

2024年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社日本動物高度医療センター	神奈川県川崎市高津区久地2丁目5-8	153,400	-	153,400	5.33
計	-	153,400	-	153,400	5.33

(注) 「株式給付信託(J-ESOP)」導入に伴い、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式140,000株は上記自己株式には含まれておりません。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による期中レビューを受けております。

1【中間連結財務諸表】

(1)【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,337,639	928,460
売掛金及び契約資産	297,196	307,390
商品及び製品	74,873	90,929
原材料及び貯蔵品	22,481	20,678
その他	52,918	77,675
貸倒引当金	7,745	9,374
流動資産合計	1,777,363	1,415,759
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,125,025	2,332,867
工具、器具及び備品(純額)	1,628,363	1,737,637
土地	2,248,337	2,248,337
その他(純額)	150,096	4,784
有形固定資産合計	6,151,823	6,323,627
無形固定資産		
のれん	162,958	152,773
商標権	348,371	326,598
その他	36,752	38,350
無形固定資産合計	548,082	517,722
投資その他の資産	292,767	304,874
固定資産合計	6,992,673	7,146,224
資産合計	8,770,036	8,561,983
負債の部		
流動負債		
買掛金	58,702	61,346
1年内返済予定の長期借入金	626,493	663,981
未払法人税等	81,149	132,347
賞与引当金	118,447	133,592
その他	653,818	346,542
流動負債合計	1,538,611	1,337,810
固定負債		
長期借入金	3,230,051	3,151,712
株式給付引当金	-	17,838
退職給付に係る負債	38,350	42,500
繰延税金負債	99,837	92,311
資産除去債務	41,394	41,622
その他	10,367	7,499
固定負債合計	3,420,001	3,353,484
負債合計	4,958,612	4,691,295
純資産の部		
株主資本		
資本金	796,725	801,600
資本剰余金	712,128	720,405
利益剰余金	2,712,674	2,901,897
自己株式	410,104	553,214
株主資本合計	3,811,423	3,870,688
純資産合計	3,811,423	3,870,688
負債純資産合計	8,770,036	8,561,983

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	1,982,185	2,569,168
売上原価	1,359,036	1,678,311
売上総利益	623,149	890,856
販売費及び一般管理費	463,318	539,939
営業利益	159,831	350,917
営業外収益		
受取家賃	11,680	12,063
その他	6,468	3,307
営業外収益合計	18,149	15,370
営業外費用		
支払利息	9,320	11,884
資金調達費用	1,843	2,204
固定資産除却損	14,435	97
その他	181	108
営業外費用合計	25,781	14,295
経常利益	152,198	351,992
特別利益		
固定資産売却益	1,349	-
特別利益合計	1,349	-
税金等調整前中間純利益	153,548	351,992
法人税等	55,798	109,151
中間純利益	97,749	242,840
親会社株主に帰属する中間純利益	97,749	242,840

【中間連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	97,749	242,840
中間包括利益	97,749	242,840
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	97,749	242,840

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	153,548	351,992
減価償却費	204,135	264,997
のれん償却額	10,184	10,184
貸倒引当金の増減額(は減少)	406	1,629
賞与引当金の増減額(は減少)	17,354	15,144
株式給付引当金の増減額(は減少)	-	17,838
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	450	4,150
支払利息	9,320	11,884
資金調達費用	1,843	2,204
固定資産売却益	1,349	-
固定資産除却損	14,435	97
売上債権の増減額(は増加)	3,645	10,194
棚卸資産の増減額(は増加)	16,136	20,235
仕入債務の増減額(は減少)	12,648	2,644
未収消費税等の増減額(は増加)	61,432	7,513
未払消費税等の増減額(は減少)	84	4,124
その他	28,734	3,693
小計	507,715	645,257
利息及び配当金の受取額	19	125
利息の支払額	9,489	12,131
法人税等の還付額	-	542
法人税等の支払額	133,623	68,536
営業活動によるキャッシュ・フロー	364,622	565,255
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	774,488	688,691
有形固定資産の売却による収入	1,449	-
無形固定資産の取得による支出	6,104	7,223
敷金の差入による支出	262	68
保険積立金の積立による支出	16,177	16,501
その他	6,414	643
投資活動によるキャッシュ・フロー	789,167	711,840
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	489,900	300,000
長期借入金の返済による支出	290,045	340,851
株式の発行による収入	-	8,750
リース債務の返済による支出	2,676	3,647
自己株式の取得による支出	-	172,391
自己株式の処分による収入	3,000	-
配当金の支払額	-	52,523
その他	1,709	1,930
財務活動によるキャッシュ・フロー	198,468	262,594
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	226,076	409,179
現金及び現金同等物の期首残高	1,816,039	1,337,639
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,589,963	928,460

【注記事項】

(中間連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(株式給付信託(J-ESOP))

当社は、2024年2月15日開催の取締役会において、当社の株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託(J-ESOP)」(以下「本制度」といいます。)を導入することを決議し、2024年3月より導入しております。

(1)取引の概要

本制度は、米国のESOP(Employee Stock Ownership Plan)制度を参考にした信託型のスキームであり、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社は、従業員に対し個人の貢献度や勤続年数等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

本制度の導入により、従業員の株価及び業績向上への関心が高まり、これまで以上に意欲的に業務に取り組むことに寄与することが期待されます。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当中間連結会計期間末において274,687千円、140,000株であります。

(中間連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
給料手当	103,777千円	120,936千円
貸倒引当金繰入額	406	1,629
賞与引当金繰入額	18,197	18,538
退職給付費用	400	100
株式給付引当金繰入額	-	2,841

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
現金及び預金勘定	1,689,963千円	928,460千円
預入期間が3か月を超える定期預金	100,000	-
現金及び現金同等物	1,589,963	928,460

(株主資本等関係)

1. 前中間連結会計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

2. 当中間連結会計期間(自2024年4月1日 至2024年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年5月9日 取締役会	普通株式	53,865	利益剰余金	20.00	2024年3月31日	2024年6月12日

(注) 上記の配当金の総額には、株式給付信託(J-ESOP)が保有する当社株式に対する配当金1,094千円を含んでおります。

(2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、動物医療関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社グループは、動物医療関連事業の単一セグメントであります。つきましては、補足情報として、主要な売上上の区分についての販売実績を下記のとおり開示いたします。

(単位:千円・%)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	
	売上高	構成比	売上高	構成比
二次診療サービス	1,327,762	67.0	1,837,820	71.5
画像診断サービス	258,327	13.0	267,184	10.4
健康管理機器レンタル・販売	392,827	19.8	459,962	17.9
その他	3,268	0.2	4,200	0.2
顧客との契約から生じる利益	1,982,185	100.0	2,569,168	100.0
外部顧客への売上高	1,982,185	100.0	2,569,168	100.0

(注) グループ間の取引については相殺消去しております。

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
(1) 1株当たり中間純利益金額	35.61円	93.54円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益金額(千円)	97,749	242,840
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益金額(千円)	97,749	242,840
普通株式の期中平均株式数(株)	2,744,380	2,595,877
(2) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額	35.07円	93.31円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	42,216	6,540
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として所有する当社株式を、1株当たり中間純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。当該自己株式の期中平均株式数は当中間連結会計期間277,546株であり、このうち「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として所有する当社株式の期中平均株式数は当中間連結会計期間114,885株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(剰余金の配当)

2024年5月9日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

- (イ) 配当金の総額.....53,865千円
- (ロ) 1株当たりの金額.....20円00銭
- (ハ) 支払い請求の効力発生日及び支払開始日.....2024年6月12日

(注) 1. 2024年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。
2. 上記の配当金の総額には、株式給付信託(J-ESOP)が保有する当社株式に対する配当金1,094千円を含んでおります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年11月13日

株式会社日本動物高度医療センター
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 太田 稔
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 飯田 圭一
業務執行社員**監査人の結論**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社日本動物高度医療センターの2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社日本動物高度医療センター及び連結子会社の2024年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R Lデータは期中レビューの対象には含まれていません。